

G3m上の不動化ペプシン

Cat. No. NATE-1767

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 ペプシンはエンドペプチダーゼです。ペプシンは、芳香族およびジカルボン酸L-アミノ酸残基の隣接部位で、特にフェニルアラニンとロイシンに優先して好ましく、バリン、アラニン、グリシンの隣接部位ではないタンパク質やペプチドを加水分解します。ペプシンはpH 6.0以上では安定ではありません。G3m: CRカラムあたり25 µgのペプシン (0.4 m Anson) がデキストランに固定化されています (1 m Anson単位は、pH 2で37.5°Cの陽性ヘモグロビンから放出されるチロシンとして計算されたフォリン陽性アミノ酸の1 µmoleに相当します。このmAnson単位は約180 D-A280単位に相当します)。保存バッファー: 50 mMグリシン、10% (v/v) グリセロール、pH 4.0 反洗バッファー: 20 mM Naアセテート、pH 4.7 洗浄バッファー: 20 mM Naアセテート、1.0 M NaCl、pH 4.7

別名 EC 3. 4. 23. 1; ペプシン; 乳酸ペプシン; ペプシンフォルティオール; 胃底ペプシン; ペプシン乳酸エリクサー; P I; 乳酸ペプシンエリクサー; P II; ペプシンR; ペプシンD; ペプシンA

製品情報

由来 豚の粘膜

EC番号 EC 3. 4. 23. 1

プロトコル

- 配達されたバッファーを (各2 ml以上) 無菌の二重蒸留水で希釈します。1回のアプリケーションには以下が必要です: 1 mlの10x反洗バッファーと9 mlの二重蒸留水 2 mlの5x洗浄バッファーと8 mlの二重蒸留水 1 mlの10x保存バッファーと1 mlの100%グリセロール、8 mlの二重蒸留水。基質は反洗バッファーに入れておく必要があります。
- CRカラムを10 mlの反洗バッファーで平衡化します。10 mlの反洗バッファーをシリンジに入れ、重力で反洗バッファーをカラムの上部フィルターまで流します。バッファーの流れが非常に遅い場合は、シリンジで力をかけてください。
- 反洗バッファー中の基質溶液をロードします。小さな体積 (< 70 µl): CRカラムをベンチトップ遠心分離機で5秒間回転させます (2000 rpmで十分です)。基質溶液がマトリックス材料に入るのを待ちます。大きな体積: 基質溶液をカラムを通して流します。流量: 最大70 µl/分 基質をカラム内に約1分間室温で保持します。基質を再度カラムに適用するか、長時間インキュベートすることで、より高い回転率が得られます。
- 製品溶液を溶出します。小さな体積 (< 70 µl): カラムから製品を遠心分離します。大きな体積: 基質をカラムを通して流し、残留溶液をマトリックスから遠心分離します。注意: 70ダルトン未満の分子は7 mlの反洗バッファーで溶出する必要があります。カラムが乾燥しても害はありません。
- カラムを10 mlの洗浄バッファーで洗浄します。
- カラムを10 mlの保存バッファーで平衡化します。カラムを4°Cで保管します。CRカラムを凍結しないでください!

保管・発送情報

保存方法 4 °C